

保健室ってどんな場所？

-学校に保健室がある理由を探る-

養護教諭養成課程 准教授 竹下智美

なぜ学校に保健室があるのでしょうか？

みなさんは保健室は何をする場所だと思いますか？救急処置をするため？健康診断するため？それともしばしの休憩やお悩み相談をするため？

今では、学校になくってはならない場となった保健室。その役割は時代とともに変化してきました。日本で初めて小学校に設置された保健室(摂生室)には、誰も常駐することなくその部屋だけが準備され、具合が悪くなった子どもが休養するだけの場でした。その後、学校医や養護教諭(学校看護婦)が常駐するようになり、一時は、病院並みの施設となった時期もありました。

私の研究では、保健室の機能がどのように変化してきたのかを保健室に設置された「モノ」の分析を通して明らかにしています。

明治期「学制」以降、子どもに学びを保障するために、学校の様々な問題を解決してきた保健室は、まさに学校が抱えた課題の本質を見る鏡と言えるのではないのでしょうか。

今の保健室で使用されている備品の配置や色使いなどについて現場の養護教諭やゼミ生等と共に議論し、理想の保健室について研究しています。



保健室は学校診療所と呼ばれ多くの医療器具や教具が設置されていました(大正)



下記のテーマも扱っています



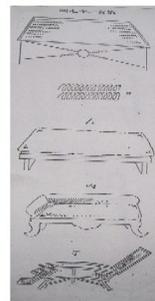
書籍①『雑誌「養護」の時代と世界—学校の中で学校看護婦はどう生きたか—』
保健室の限られた「モノ」を使用し、学校看護婦が実践を深めてく様子を知ることができます。



書籍②『日本学校保健会100年史』

養護教諭の実践史研究も行っています

文部科学省科学研究費補助金を
受けて行っています！



明治期の保健室(静養室)の寝台や安楽椅子

戦前、戦中、戦後の保健室の「空間」の設置経緯や時代ごとに保健室にはどのような備品が設置され、その備品一つひとつが、誰が何のために、設置または考案し、使用していたか、(使用されていたか)を考古学的な分析を行っています。

(科学研究費補助金基盤研究C
研究代表者 竹下智美)

明治期の保健室の寝台
種類も用途もいろいろ！